

PMI 日本支部 ニュースレター

| | |
|--|----|
| Best Practice and Competence/PM事例・知識 … | 3 |
| Activities/支部活動 | 9 |
| PM Calendar/PMカレンダー | 16 |
| Fact Database/データベース | 17 |
| Editor's Note/編集後記 | 21 |

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

PMI日本支部『SDGs スタートアップ研究分科会』の紹介

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 副代表

SDGs スタートアップ研究分科会 リーダー 稲葉 涼太

◆はじめに

SDGsの重要性が世界中で提唱され、日本においても企業・行政・教育機関・NPO等が事業を行う上で重要なテーマとなっています。また、PMIでもグローバルで年間100,000時間をSDGsに使うことをコミットしました。

PMI日本支部においても2019年度より、内閣府が設立したSDGsのマッチングプラットフォームである『地方創生SDGs官民連携プラットフォーム』の中にSDGsスタートアップ研究分科会を設立しました。

設立の背景としては、SDGsが社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGsを絵に描いた餅にしないためには実際にSDGsを事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs事業の取り組みを始めようとしても立ち上げ推進が中々効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。「How To Achieve SDGs」のためにSDGs事業に即したプロジェクトマネジメント手法の普及・促進を目的として分科会を設立しました。

SDGsスタートアップ研究 ～アジャイル・アプローチ～

2020年度

分科会提案者：一般社団法人 PMI日本支部

| | |
|---------|--|
| 分科会の目的 | SDGs達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発及び普及を行う。 |
| 解決したい課題 | SDGsへの取組みを始めても、効果的な推進ができていない状況を改善するために、SDGsプロジェクトマネジメント手法を確立し活用すること。 |

分科会での活動内容及び期待される成果

- 活動①**：SDGsスタートアップ研究（ベーシックコース）
（年度内3回予定）
SDGsプロジェクトの取組みテーマとしたプロジェクトマネジメント手法のワークショップ
- 活動②**：SDGsスタートアップ研究（アドバンスコース）
（年度内4回予定）
実際に事業として行っているプロジェクトをPMI日本支部がPM支援して推進
- 活動③**：SDGsスタートアップ学習セミナー
（年度内1回予定）

成果

- ・SDGsプロセスモデル集 2020年度版
- ・SDGsスタートアップ手法 2020年度版
- ・SDGs達成のためのプロセス習得イベント

関連するゴール



分科会での活動概要

- (1) SDGs達成プロセスの課題の把握（活動①②）
- (2) 課題解決に適した手法の研究（活動①②）
- (3) 適切なプロセスモデルによる解決手法の習得（活動③）

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI日本支部「SDGsスタートアップ研究分科会」の紹介

◆SDGsについて

改めて、SDGsとはSustainable Development Goalsの略で、日本語では『持続可能な開発目標』と訳されます。

国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成する行動計画であり、2030年に向けた17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲット、そして232の指標で構成されています。

SDGsは、17の大きな目標にコミットした私たちがゴール達成の道筋を考え実行するバックカスティング型の考え方です。17の大きな目標は大きくは経済・環境・社会に分類され、17ゴールのどれか一つを達成するために他のゴールをトレードオフで犠牲にするのではなく、経済・環境・社会の調和を取り私たちの持続的な世界を作り上げることが大切です。

SDGsを達成するためには企業・行政・教育機関・NPO等が連携し、事業として推進することが大事です。

昨今の事業を行う上で重要なキーワードは「CSV」と「ESG

投資」です。

CSVとはCreating Shared Value（共有価値の創造）の略で、これからの事業活動は経済価値と社会価値の両方の価値の向上を追求することが求められます。

またESGとはEnvironment、Social、Governance（環境・社会・ガバナンス）の略であり、これからの投資活動は環境・社会・ガバナンスの調和を持った向上に貢献する企業に投資が行われます。換言すればこれからの企業はSDGsとESGに貢献しないならば投資価値がないとみなされる時代が来ているとも言えます。

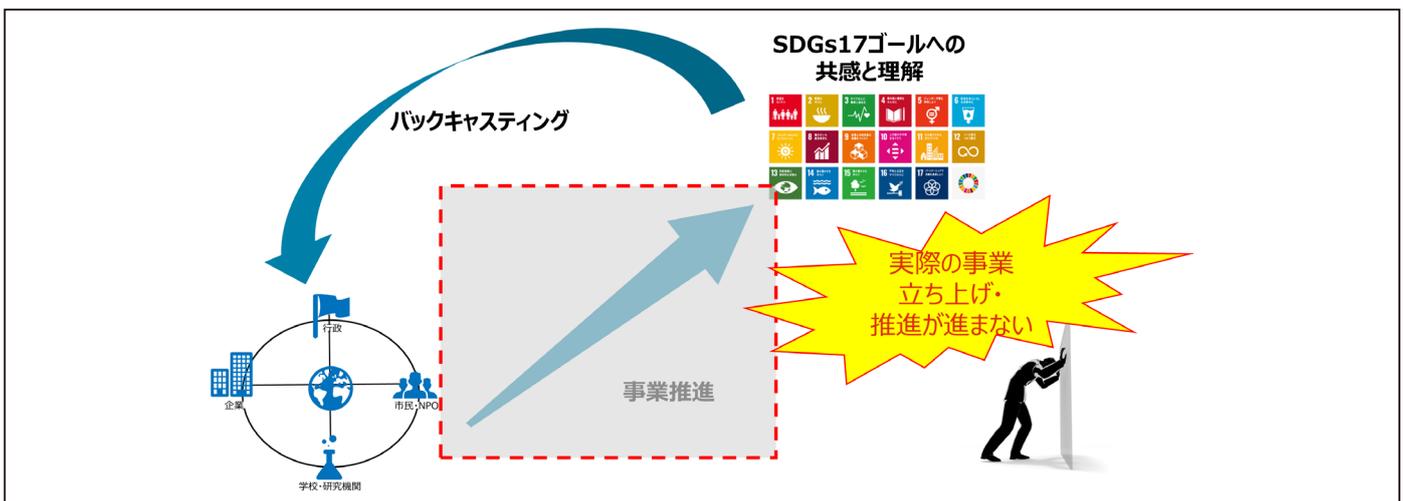
◆SDGs事業の課題認識

SDGsが目指す社会課題の解決には、誰のために、どのような価値を提供するべきか、初めから定義してかかることは難しいため、論理的に事業計画を策定しても必ずしも成功しないことがあります。

なぜなら、社会課題は、問題が見えていたとしても解決する課題が分からないことが多いからです。また課題が分かったとしても課題を解決するソリューション・サービスがなかなか明確になりません。更にソリューションが確立できたとしても誰に対してソリューション・サービスを提供すべきか、どうすれば社会に浸透できるのかも見えづらいところがあります。

そして、多様なステークホルダーの多様な声があり、色々なことが重要に見えるため何が本当に優先課題であり何に対してリソースを割くべきかなど、対応が難しい局面が多くあります。

「答」や「要件」が初めから明確ではないため長期計画遵



Best Practice and Competence / PM事例・知識

■PMI日本支部『SDGsスタートアップ研究分科会』の紹介

守型の事業モデルでは推進が困難であり、SDGs事業に取り組もうとしても効果的な立ち上げと推進を効果的に行うことが難しいという課題認識を私たちは持っています。

◆PMI日本支部『SDGsスタートアップ研究分科会』の活動について

このようなSDGs事業推進の課題を解決するために、私たちは社会価値向上・社会課題解決を目的としたソーシャル・プロジェクトに即した『ソーシャルPMプラットフォーム』という手法を確立してきました。

そのプラットフォームをベースに、SDGs事業の立ち上げ推進を効果的に行うために、仮説検証を繰り返しながら段階的に顧客ターゲットとソリューションを確定していくリーンスタートアップの手法を応用した『SDGsスタートアップ手法』を開発しました。

さらに、手法を確立するのみにとどまらず、確立した

SDGsスタートアップ手法を、実際にSDGs達成を目指す事業モデルに適用することを目指しています

SDGs事業の立ち上げ・推進が進まないという課題を解決するため、『SDGsスタートアップ手法』の普及促進を目的として、私たちは2019年10月より内閣府『地方創生SDGs官民連携プラットフォーム』の中に『SDGsスタートアップ研究分科会』を設立しました。

2019年は全3回の研修・ワークショップ形式の分科会を開催し、20以上の企業・行政・教育機関・NPOの方々に参加していただきました。

毎回、講義とワークショップを通じ、より実践的なSDGs事業のためのアウトプット作成と意見交換を行い、分科会の中でコミュニティが形成され、コミュニティの中での交流とフィードバックが新たなコレクティブ・インパクトを創発する有意義なものでした。

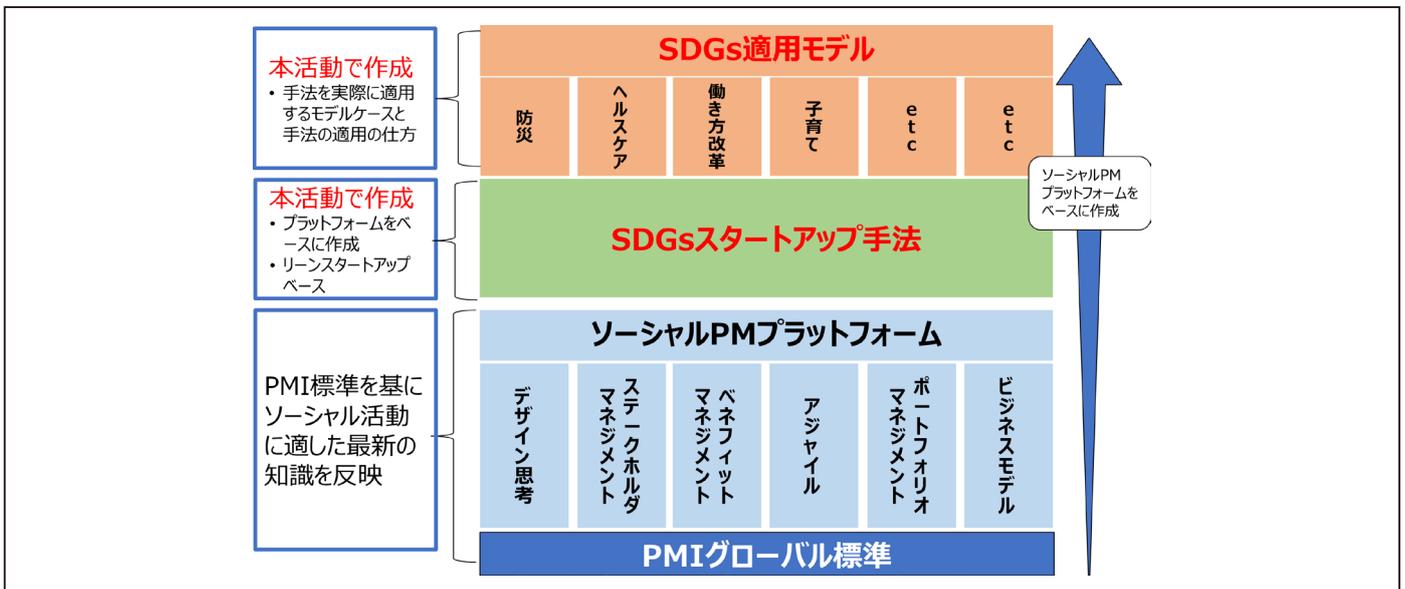


写真 昨年の分科会光景



Best Practice and Competence / 月例セミナー

■ PMI日本支部「SDGsスタートアップ研究分科会」の紹介

◆ 今後の活動

2020年度のSDGsスタートアップ分科会は

- ①SDGs プロジェクトのマネジメント手法を研修・ワークショップ形式で学ぶ「ベーシックコース」
- ②実際に事業として行っている SDGsプロジェクトを支援する「アドバンスコース」

の二本立てで実施いたします。

コロナ禍の状況を踏まえ当面はオンラインで開催します。

■ アドバンスコースについて

アドバンスコースは既に2020年7月にキックオフを行い、参加団体の実際の事業推進の支援をさせていただいています。

アドバンスコースは原則として昨年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDGs プロジェクトを対象とし、既に SDGs 事業を開始しています。基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もお受けしますのでご連絡ください（応相談）。

■ ベーシックコースについて

2020年10月より、本年度のベーシックコースを開講いたします。キックオフは10/23(金) 14時からです。

オンライン対応のため昨年より内容をコンパクトにし、かつ充実させた内容をお届けする予定です。

当分科会への参加には「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に団体として会員登録されていることが必要ですが、PMI日本支部に支部会員や法人スポンサーなどとして登録されている必要はありません。

また入会費用等は発生しません。

※詳しくはPMI日本支部のベーシックコース募集サイトとページ内の説明動画をご参照ください。

https://www.pmi-japan.org/news/info/2020_07_30_sdgs20200803.php



SDGsスタートアップ分科会の活動は随時PMI日本支部サイトのSDGsトピックコーナーに掲載いたします。

※または検索ワード「PMI日本支部 SDGs」で検索してください。

<https://www.pmi-japan.org/topics/sdgs/>

皆様のご参加をぜひお待ちしております。

- 問い合わせ先 sdgs@pmi-japan.net;

手軽にPMIの国際会議の雰囲気味わえます ～PMI Virtual Experience Series～

PMI日本支部 副会長/国際連携委員長 端山 毅



Project Management Institute, Inc. (PMI) は、例年秋にアメリカでGlobal Conferenceを開催しています。ヨーロッパなど他の地域でも大規模な国際会議を開催してきました。しかし今年は、COVID-19の影響で大規模集会がすべて中止になり、代わってVirtual Experience Series (VES) がリモート開催されています (<https://www.pmi.org/virtual-experience-series>)。

7月から12月まで、半日程度のイベントがインターネット上で計6回開催されています。すでに3回開催され、この先10月20日、11月12日、12月9日に予定されています。

11月12日木曜日のVESは、PMI会員なら無料で参加できます。

11月のテーマは、

”A Deep Dive in Business Analysis : Drawing a Map to the Future”

(ビジネスアナリシスに飛び込もう：未来への道筋を求めて)で、急速な事業環境の変化に対応すべくビジネスアナリシスが取り上げられます (<https://www.pmi.org/virtual-experience-series/november-event-details>)。

従来のGlobal Conferenceに参加するには、移動も含めて1週間かけてアメリカに行き、PMI会員であってもPMI日本フォーラムの数倍の参加費を払う必要がありました。今年は、1回5時間程度、自宅から気軽に参加できて、PDUもしっかりもらえます。Liveで参加すると深夜になりますが、後日録画でほとんどセッションを見ることができます。これまでは1回最大10PDUでしたが、10月は最大12PDUとなっています。参加費は1回99ドル (PMI会員) ですが、11月は無料です (登録は必要)。

以下本稿では、7月、8月、9月のVESの内容を振り返り、これから参加してみようと思う方に雰囲気をお伝えします。

◆VESの入口

PMIのGlobal Conferenceでは、かなりの著名人を招聘します。運営サイドも専門家が起用されて、今回の案内役はTamron HallというTV Showホストです。参加登録して専用サイトにアクセスすると、まずは彼女の導入説明を聞くこととなります。プロの正確な英語は聞き取りやすく、この先のセッションも何とかなりそうな気にさせてくれます。8月からは講演者の説明が字幕表示されるようになりました。オンデマンドで見ている場合は、途中で止めて分からない言葉を辞書や検索エンジンで調べてから再開することもできます。講演者の著作やお薦め書籍が紹介されたら、amazonで概要や書評を見てみるのもよいでしょう。

◆メインステージの登壇者達

講演は、メインステージとBreakout sessionに分かれています。7月と8月の冒頭はPMI CEOのSunil Prasharaがゲストと対談する形式でした。7月のゲストはJose Andreasというスペインの料理人。大規模災害時に被災者に食事を提供する活動をしています。8月のゲストはTrevor Noahという南アメリカ出身のコメディアン。ニュース番組のホスト役としても有名で、COVID-19下での社会変化等が話題になりました。

9月の冒頭に登場した基調講演者は17歳の少女でした。Tanya Elizabeth Kenというインド人の少女に、起業家でベンチャーキャピタリストのAlexis Ohanianがインタビューするという形式でした。Alexis Ohanianという人もとんでもない人ですが、ここでは触れずに、Tanyaに絞ります。

Tanyaは、子供たちが平等に教育を受けられるようにすることを目指してLakshayShalaという会社をChennaiに設立し、欧米からの出資を集めて、“Goal Shadowing”というアプリを開発しました。単にソフトウェアを開発するだけでなく、恵まれない環境にある子供たちに教育の機会を提供するため、多面的なコンポーネントで構成されるポートフォリオを推進しています。Tanya自身が恵まれた環境にある才能に溢れる

Best Practice and Competence / 月例セミナー

■手軽にPMIの国際会議の雰囲気が味わえます ～PMI Virtual Experience Series～

人だということは容易に想像できますが、自らのミッションを定義し、世界を見渡して利用可能な資源を調達し、現実的かつ効果的に行動していることは驚嘆に値します。

◆話題の著者紹介コーナー

毎月、話題の書籍の著者を招いて、Bob Safianというジャーナリストがインタビューするセッション（Book Club）もメインステージで行われています。昨年のGlobal Conferenceでは、Bob Safian自身の講演もありましたが、PMIが主張しているThe Project Economyという考え方には、彼の取材の影響が色濃く出ています。各界の著名人にインタビューする専門家であり、時代の潮流を読んで発信するジャーナリストです。プロジェクトマネジメントについては素人だと言いつつ、ゲストから興味深い話を次々と引出して行きます。

Bob Safianのインタビューを受けたゲストとその著作を挙げておきます。

7月：Priya Parker, “Art of Gathering”, 効果的な集会、会議の開き方について

8月：Rana el Kaliouby, “Girl Decoded”, AIにおける人間性と感情の研究について

9月：Karin Hurt & David Dye, “Courageous Cultures”, 前向きで創造的なチームについて

◆多数の実践的情報提供

Breakout sessionでは、30分ずつのセッションが多数あって、具体的な知見、ベストプラクティスが紹介されています。AgileやDXに関する議論もありますが、リーダーシップやチームワーク、コミュニケーションなど、ソフトスキルを取り上げているものも多いように思います。ここは並行セッションなので、事前にプログラムを見てどれが面白そうか調べておくと良いでしょう。

“Brand You”という種類のセッションもあり、LinkedInの書き方、プレゼンやビデオ撮影のテクニック、エレベーターピッチの作り方など、自分の能力や主張を効果的に伝えるテクニックを教えてください。

◆退屈させない工夫

セッションの合間にPMIからの数分のビデオが挟み込まれています。PMIのCEO、Sunil PrasharaがCitizen Developmentについて語ったものが目に留まりました。Sunilは昨年来、No Code/Low Code プラットフォームに注

目しており、ソフトウェアの専門家でない人達が問題解決に必要なソリューションを手に入れていく潮流を取り上げています。（<https://www.pmi.org/citizen-developer>）

イベント全体が一方通行にならないようにさまざまな工夫も凝らされています。Q&Aの時間をしっかりとるセッションが多く、多数の質問が寄せられていました。主要な講演者やPMI理事などと対話するセッションや、参加者同士でチャットする場もあります。展示コーナーやPMIの製品やサービスを紹介するコーナーもあり、ライブ開催中は担当者が待機して質問に答えてくれるようです。

◆特徴と感想

全般的に日本国内の会合やマスコミで得られる情報とは、明らかに違う論調を感じます。Breakout Sessionの講演者には、シニアなコンサルタントらしき人が多いですが、メインステージに呼ばれている人達が若く、その多くは女性。出身/国籍/宗教も多様です。日本の状況に比べれば、この人達を取り囲む世界は、混乱し不正と不条理が支配し、危機に瀕していると推測されます。にもかかわらず、過去と現在を冷静に見つめ、将来に希望を見出して、挑戦し前進しようとする意志と情熱に満ちています。

PMIでは、Future 50という若者が率いているプロジェクトを選定・紹介しています（<https://www.pmi.org/future-50>）。VESのWebサイトの中にもFuture 50のコーナーがあります。大胆に挑戦する多くの若者に驚かされます。彼らは理性と知性、そして感性を磨き、絶望してもおかしくない状況で人間性を失わずに解決策に取り組み、しかも経済活動とのバランスも確保しているように見えます。

PMIという場に形成されたコミュニティでは、状況に適応して自らが変化し、そしてプロジェクトマネジメントを利用して社会を変えていこう、変えられるという信念が土台にあるように思います。変化こそが自分たちの活躍の場であり、プロジェクト・マネジャーを変化の先導役と再定義しています。

PMIのイベントはアメリカ流を学ぶ場のような印象をお持ちの方もいらっしゃるかも知れませんが、今のPMIは、インドや中東、東欧、そしてアフリカなどから新たな人材と潮流を呼び込み、変化の中でプロジェクト・マネジャーの活躍の場を拡大しようとしているように見えます。

困難な問題に新たな感覚で挑む人々の息吹をVESで感じてみませんか。

Activities / 支部活動

PMI日本支部・広報担当の活動紹介！

PMI日本支部 広報担当理事 富岡 洋子

2020年1月期の理事会にて、広報担当がアサインされたことを皆さんご存じでしょうか？各部会・各研究会の活動、そしてそれに伴う情報発信が活発になっていることを受け、理事会としても情報発信活動を横串で支援できるよう、新たにミッションを設けました。

今期は担当理事として端山副会長と富岡が任命され、事務局のメンバーとともに、知恵を絞る毎日です。

●活動のスタートは「緊急企画」から

実質的に活動を始めたのはまさしくコロナ感染が拡大し始めたタイミングと同じころ。とにかく、この大変な状況に直面している会員の皆さんにとって、少しでも役に立つ情報発信をしよう！！と緊急企画「感染症対策下のPM」を立ち上げました。

↓アーカイブはこちら。

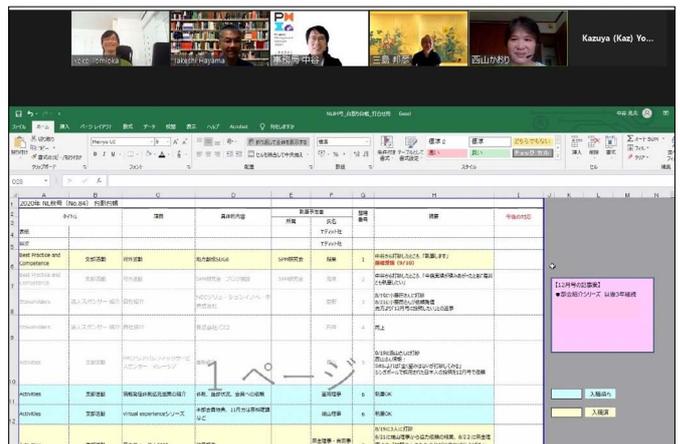
<https://www.pmi-japan.org/topics/pr/>

1か月の短期企画、かつ、必ず週に2回メールで発信すると決めて走り抜けた企画でしたが、関係の皆さまの多大なご協力のもと、無事に完結することが出来ました。メールの開封率も通常のメールマガジンより高かったことから、少しなりとも会員の方々に寄り添う発信ができたのであれば、何よりだったと感じています。

●ブログ発信ニーズを受けてソーシャルメディアポリシーを整備

次に取り組んだのが、ソーシャルメディアポリシーの整備です。ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会からソーシャルメディアを活用して情報発信を活発化していきたいという相談を受けたことをきっかけに、PMI日本支部としてのポリシーを整備するとともに、ソーシャルメディア発信にあたっての理事会への申請方法も明確化しました。

部会・研究会からの活発な情報発信は、PMI日本支部活性化のバロメーターです。情報発信について相談あれば、どうぞ気軽に声をかけてください！



Activities / 支部活動

■ PMI日本支部・広報担当の活動紹介！

↓ ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会のブログはこちら。

<https://note.com/pmijsocialpm>

● 毎週の情報発信ミーティングで知恵を絞っています

こうした活動を進める一方で、通常の情報発信活動についても、事務局とチームを組んで活性化を図っています。

まずはメールマガジン、ニューズレターという情報発信基盤をしっかりと運用していくことに加え、ソーシャルメディアも使っていないものはいったん停止し、FacebookとYouTubeに運用を絞りこみました。

発信だけにとどまらず、開封率やコンテンツアクセス状況などのモニタリングも重要です。この4月からメールマガジンの発信プラットフォームを変更し、開封率がより正確に把握できるようにしています。

現在は、担当理事と事務局メンバーで情報発信チームとして一体になり、毎週金曜日に情報発信ミーティングを開催して、みんなで話し合いながら、課題を解決し、アクションを進めています。

● これからの取り組みについて

広報担当の活動はまだ緒に就いたばかりですが、上記の取り組みに加え、今後は重要な情報発信基盤であるPMI日本支部のウェブサイトについても、さらなる活性化に向けて議論をしていきたいところです。

今秋のステークホルダー調査結果も参考にしつつ、情報発信のハブとして、各部会・研究会の活発な情報発信をつなぎ、Peatixなど新しいプラットフォームへの発信なども連携していけるようにしていきたいと思います。

会員の皆様も、情報発信活動への期待など、ぜひいろいろなご意見をお聞かせください。

今後とも、会員の皆様に必要な情報をお届けできるよう、チーム一同頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【お知らせ】 メールマガジン登録手続きについて

PMI日本支部からさまざまな情報をお届けしているメールマガジンですが「受け取れていない」という方は、周囲にいませんか？

PMI本部に登録されているプロフィールに、これらのメールを受け取るための設定がありますので、周りで受け取れていない方がいたら、以下のページを参考にさせていただきよう、ぜひご案内ください。

https://www.pmi-japan.org/news/info/2020_08_22_20200822pmimail.php

PMI日本フォーラム2020 結果報告

| | |
|-------|---|
| 日 程 | 7月4日、5日（聴講期間：7月4日から7月12日） |
| テ ー マ | デジタルイノベーションに挑む — プロジェクトマネジメントが変える社会と組織 — |
| 講演形態 | リモート配信 <ul style="list-style-type: none"> ライブ配信 7月4日、5日 基調講演、招待講演 5日 Global（ワークショップ）、アカデミック（一部） ライブ配信の講演は、終了後オンデマンドで聴講可能 オンデマンド配信 7月4日（日）から12日（日）まで聴講期間 アカデミック、一般セッション |
| 講演数 | 62セッション |

PMI日本支部は、プロジェクトマネジメントの幅広い普及活動、啓発活動のひとつとして、毎年7月に学術情報センター（一橋講堂）で2日間にわたって日本フォーラムを開催しています。

今年は「デジタルイノベーションに挑む — プロジェクトマネジメントが変える社会と組織 —」をテーマに、2019年秋期には国内外の基調・招待講演者への講演依頼に着手し、講演内容の大半は今年2月時点で確定させていました。その後、COVID-19の感染拡大のため、フォーラムの開催自体が可能なかの議論もありましたが、全講演をリモート配信する方針とし、講演者ならびに関係する皆様からの多大なるご支援のもと、予定通り開催にこぎつけました。

リモートでの開催にあたっては、基調・招待講演者はライブ配信ならびに、後日のオンデマンド配信に変える旨、ご理解をいただきライブ配信に向け事前打ち合わせ、リハーサル等を進めました。

◆基調・招待講演

当日は、PMI日本支部 片江有利会長の挨拶に続き、PMI本部のChair of Board of Directors Mr. Tony Applebyから

「将来の仕事を形作っているグローバルなビジネス、経済、地政学的な動向及びプロジェクト・エコノミーの推進」、東京大学大学院 越塚 登教授から「Beyond COVID-19とデジタルイノベーションによる私達の未来」と題した基調講演の後、10人の国内外の幅広い分野の識者からそれぞれの立場で2日間にわたり、示唆に富む講演をいただきました。また、ライブ配信終了後は、基調・招待講演者の講演録画をオンデマンドで聴講できるようにしました。受講者からの質問に対しては、講演中および、事後にも回答いただける仕組みを構築し好評を得ました。

◆グローバル講演

グローバル講演では、「チームワークによるプロジェクトデザインの最適化ワークショップ」と題して小人数のチームを作り、2時間のリモートでのワークショップを実施しました。このワークショップでは、プロジェクト・モデリングソフトウェアのツールを使いデジタルイノベーションを推進するためのモデルベース・プロジェクトマネジメントを体験していただきました。

◆アカデミック講演

アカデミックでは、今年もPBL、PM実践教育事例からキャリア教育、産学連携まで、幅広いテーマでのトラック・セッション構成となりました。また、一般トラックと同様に完全オンラインでの実施となり、ライブ配信では5セッション、オンデマンド配信では4セッションの講演をご提供しました。なお、企画・運営に関しては教育国際化委員会が中心となり実施しています。

ライブ配信では、人数制限のないオンラインの特性を活かし教育関係者以外にも幅広く参加のお声がけをさせていただいた結果、200名以上の方に事前登録をしていただくことができました。

オンデマンド配信では片江会長によるリカレント教育をテーマにした講演の他、PMIが提唱する「Project economy」時代の学びをテーマにした講演をなども提供させていただきました。

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020 結果報告

◆ 一般セッション

一般セッションでは、事前に「ビデオ作成ガイドライン」に沿って作成いただいた各講演者の講演ビデオをオンデマンドで配信しました。PMI日本支部各部会、法人スポンサー・スタディグループからPMIがグローバルに推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスクマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系、そしてソーシャル、アジャイルなどに関連した講演が、22部会・SGから33セッション、またフォーラムスポンサーから6セッションあり中身の濃い内容となりました。

◆ 受講規模

受講者の皆様には、聴講期間を7月12日まで設け、グローバルのワークショップを除く全セッションがオンデマンドで聴講できるようにまた、質問の受付、講演資料のダウンロードは7月末まで対応できるようにしました。最終的には昨年とほぼ変わらない800名を超える受講申し込みがありました。アンケート結果から受講地域を県別にみますと、やはり大都市圏が多いのですが、北は北海道、南は鹿児島に至るまで多くの県からの聴講があり、また海外からは5ヶ国（イギリス、インド、シンガポール、デンマーク、アメリカ）7名の聴講がありました。

◆ 評価

評価においても、「総合評価：大変良かった、良かったが98%」、「ライブ聴講評価：大変良かった、良かったが98%」、「オンデマンド聴講評価：大変良かった、良かったが98%」の評価をいただきました。事後アンケートからは、リモート配信ならびに9日間の視聴期間を設けたことで、日程に拘束され

図1 県別聴講者数

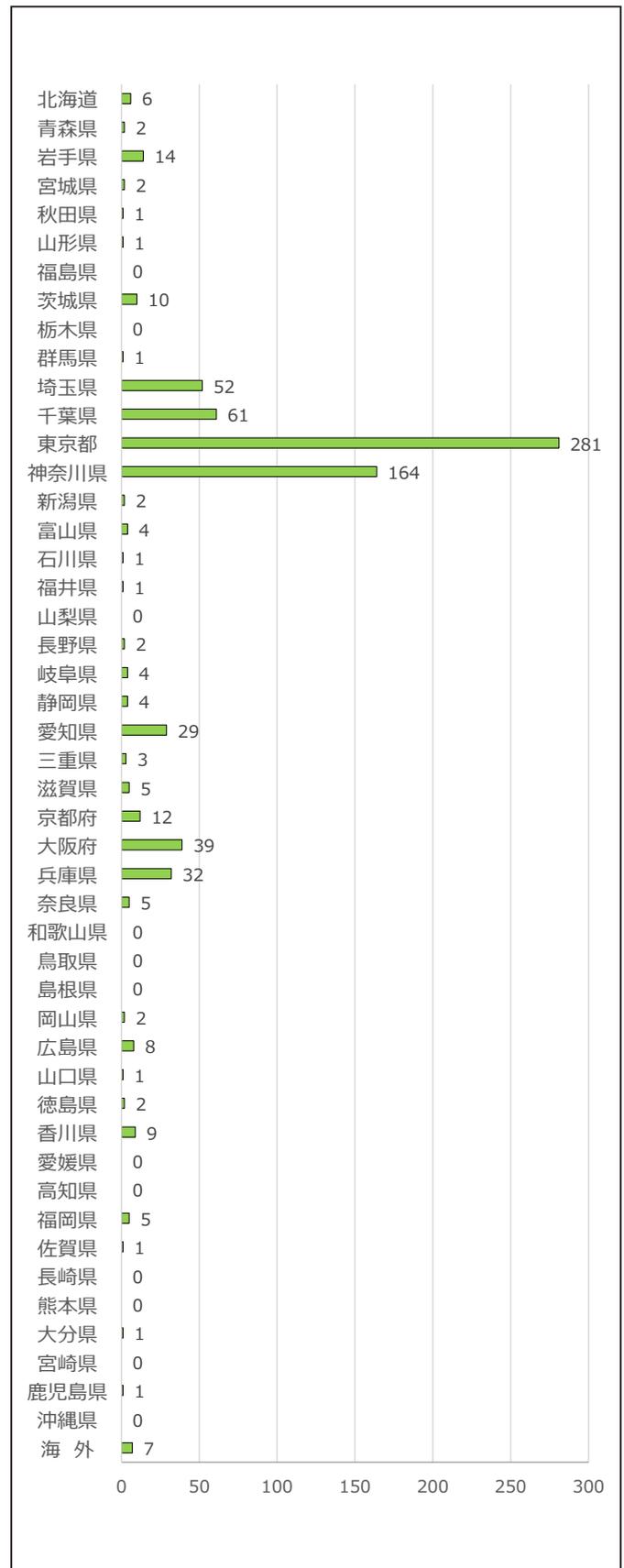
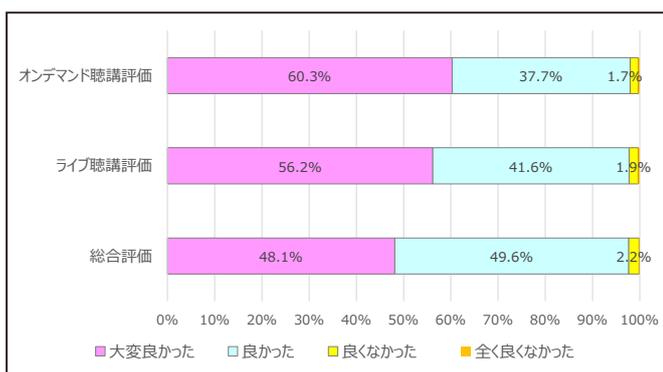


図2 評価



Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020 結果報告

ることなく、また、会場に移動する時間等もなく、受講者それぞれがご自身のペースで聴講できたというご意見を多数いただきました。また、昨年までの会場開催では6つのセッションを並行で進めており、受講者は物理的にどれか1つしか聴講できなかったのですが、今年はすべてが聴講できる環境を提供したことにも高い評価をいただきました。

一方で、「会場での生の講演を通して感じることのできる臨場感に欠けた」、交流会やスポンサー企業様の展示等は実施できなかったことから、「ネットワーク構築に難あり」というご意見もいくつかいただきました。

◆ おわりに

リモート配信に切り変えるにあたり多くの課題が想定され

るなか、フォーラム担当理事と事務局を中心に、技術的な面、当日運営についていろいろな課題を解決しながら作業を進めてきました。

特に2日間のライブ配信の当日運営については、セミナープログラムのメンバーを中心としたボランティアの皆様の大変なサポートをいただき、無事終えることができましたことをこころより感謝申し上げます。

2021年も今年と同じく夏開催とし、7月10日(土)、11日(日)の2日間を予定しており、COVID-19の先が見えない中、どのような形態になるかわかりませんが、皆さまからいただいたご意見を参考に、より充実したフォーラムが開催できるよう改善を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

表1 ライブ講演とオンデマンド録画講演になって、一番良かった点

| | | |
|--|-----|--------|
| 現地に向く時間、労力、交通費が省ける | 304 | 39.23% |
| オンデマンド配信で興味のあるセッションを任意に視聴することができた | 234 | 30.19% |
| 昨年までの同時配信では部会の講演を聞くことができなかった。今回は、聞くことができた。 | 95 | 12.26% |
| 地方在住でも聴講できる | 50 | 6.45% |
| 落ち着いて聴講できる | 50 | 6.45% |
| 集合形式のセミナーよりも、質問しやすい | 7 | 0.90% |
| 良かった点は特にない | 2 | 0.26% |

表2 ライブ講演とオンデマンド録画講演になって、最も良くなかった点

| | | |
|---------------------------------|-----|--------|
| 良くなかった点は特に無い | 307 | 39.87% |
| 臨場感に欠ける | 196 | 25.45% |
| 質疑応答や交流会を通じての人の輪の構築は難しい | 147 | 19.09% |
| リモートワークで家に居るため、家族が居て落ち着いて聴講できない | 27 | 3.51% |
| 質問がしにくい | 12 | 1.56% |

PMI Japan Festa 2020

■ 予期せぬ危機に決断せよ!

～危機を乗り越える新しい時代のプロジェクトマネジメント～

PMI Japan Festa 2020 統括PM セミナープログラム 大島 康宏

PMI Japan Festaは、前身のPMI Japan Summer Festa から数えて12年目の節目を迎えます。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止に鑑み、全面ウェビナー形式での開催といたしました。全ての講演をライブで配信し、講演中の質問をリアルタイムで受け付け、可能な限り受講者の皆様と講演者が同じ時間を共有できるように構成しました。さらに、リモート配信ならではの、12年目の節目ならではのFesta(=お祭り)にふさわしい企画を用意しています。

■ 日時

ライブ配信 2020年11月7日(土) 12:00～18:10、
8日(日) 9:30～16:20
オンデマンド配信 2020年11月10日(火)～16日(日)

■ ハイライト PMI Japan Festa 2020

リーダーシップ、戦略、ビジネスマインドを養うプログラム

プロジェクトマネジメントのテクニカルな側面を身に付けていることは、プロジェクト・マネジャーにとって最も重要な条件です。しかしながら、テクニックだけを駆使してもプロジェクトを成功に導けないことも事実です。

PMI Japan Festaの特長は、PMI標準関連などのセミナーではカバーされていない、より広範で重要なエリアの最新情報を提供することです。

これからプロジェクトマネジメントを学ぼうという方にはリアルな現場感覚を、ベテランの方には視点を変えたアプローチによる新たな発見が得られるよう、プログラムを企画しています。

今年もまた、業種業界を問わず時代の一步先を進むリー

ダーを幅広くお招きし、ビジネスの最前線における戦略とそれを成功に導くリーダーシップについてお話しいただきます。現場PMの、現場PMによる、現場PMのためのFesta

PMI Japan Festaのコンセプトは「現場PMの、現場PMによる、現場PMのためのFesta(祭典)」です。現役のプロジェクト・マネジャーを含めたPMI日本支部会員のボランティア・スタッフが、その企画・運営のすべてを担っています。

参加者の方々とスタッフが一体となって「PMI Japan Festa 2020」を盛り上げ、プロジェクト・マネジャーとしての日ごろの苦労を忘れて共に楽しみを分かち合える、そのようなイベントにしたいと考えています。

スタッフは参加者の皆さまと同じ現場PMの立場で、毎年の受講完了報告からいただくご意見・ご要望をもとにさまざまな改善を図っています。後日回答をお願いする受講完了報告(アンケート)では、皆様の忌憚のないご意見をお願いいたします。

なお、毎年「全てのセッションについて配布資料がほしい」というご意見をいただいておりますが、講師のご意向からどうしても資料の配布ができないセッションがございますので、ご容赦ください。

ライブ配信とオンデマンド配信

ウェビナー形式のため、インターネット環境があればどこからでも聴講いただけます。11月7日(土)、8日(日)の2日間に渡りライブ配信を行い、同内容を11月10日(火)から15日(日)までオンデマンド配信します。ライブ配信時間にご都合がつかない方でも、その後のオンデマンド配信で全セッションを聴講できます。また、ライブ配信で聴き逃したことをオンデマンド配信で確認・復習いただけます。

Activities / 支部活動**PMI Japan Festa 2020****特別企画**

2日間にわたりライブ配信を長時間聴講になる皆さまの息抜きのために、休憩時間に動画配信を行います。座ったままで簡単に試せる、肩こり・腰痛に効くヨガ講座を予定しています。その他、ニューノーマル時代におけるリモートセミナーならではの楽しい企画も用意しています。どうぞご期待下さい！

料金設定

支部会員以外の方々にもFestaの楽しさをぜひ体験いただきたいとの思いから、例年にない料金設定を設けました。支部会員からの紹介で参加いただく場合は支部会員と同料金で参加いただけます。支部会員の方々はこの機会に是非お友達、同僚の方々をお誘いください。

講師陣

目下講師と交渉中です。現在決定済の方々は以下のとおりです（順不同）。

①教えて！会社員から登録者数100万人の人気YouTube

チャンネル・オーナーへ
～華麗なる転身への道程～
手綱 友哉 様
B-life 合同会社 代表

②全社員リモートワークの幸せな働き方改革

倉貫 義人 様
(株)ソニックガーデン 代表取締役社長

③ソフトウェア品質崩壊はどこから来るのか？

岸良 裕司 様
株式会社Goldratt Japan CEO

④世界初の「人工流れ星」実現への挑戦

岡島 礼奈 様
株式会社ALE 代表取締役社長/CEO

⑤ラグビーワールドカップ2019日本大会 ボランティアプログラムのリアル

～史上最も成功したボランティアプログラムに至るまでの道のり～
佐藤 洋平 様
元 ラグビーワールドカップ2019組織委員会

⑥越境型フルリモート組織の作り方とマネジメント

平田 麻莉 様
(社)プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会 代表理事

⑦第一生命におけるITプラットフォーム戦略

太田 俊規 様
第一生命保険(株) ITビジネスプロセス企画ユニット フェロー

年に一度のPMのためのお祭りをどうぞお楽しみ下さい。

イベント詳細

https://www.pmi-japan.org/event/open_seminar/other/2020_09_18_pmi_japan_festa_20201178.php

予告動画

<https://www.youtube.com/watch?v=g6H2Lf7tltQ>

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
 今般の新型コロナウイルス拡大防止の観点から、多くのセミナーは中止となっています。現在、リモート環境でのセミナー実施について鋭意検討中です。
 詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

● ディシプリンド・アジャイル基礎

- 日時：10月6日(火) 9:00～18:45
- 形式：ウェビナー
- 7PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 地域セミナー「PMIビジネスアナリシス・ガイド」のご紹介とミニワークショップ

- 形式：ウェビナー
- 日時：10月3日(土) テーマ 北海道
 10月10日(土) テーマ 福岡
 10月17日(土) テーマ 大阪
 11月14日(土) テーマ 愛知
 11月21日(土) テーマ 広島
 いずれも 13:00～16:00
- 2.75PDU、ITC実践力ポイント2.75時間分

● 上級PMを目指そう！ PfMP® 資格取得セミナー ～ポートフォリオマネジメント標準 第4版 概説

- 日時：10月30日(金) 19:00～21:00
- 形式：ウェビナー
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 中国地域コミュニティ@広島 特別セミナー

- 日時：10月31日(土) 13:30～16:25
- 形式：ウェビナー
- 無料、2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI Japan Festa 2020

- 日時：11月7日(土)・8日(日)
- 場所：ウェビナー
- 10PDU、ITC実践力ポイント10時間分

【月例セミナー開催について】 2020年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

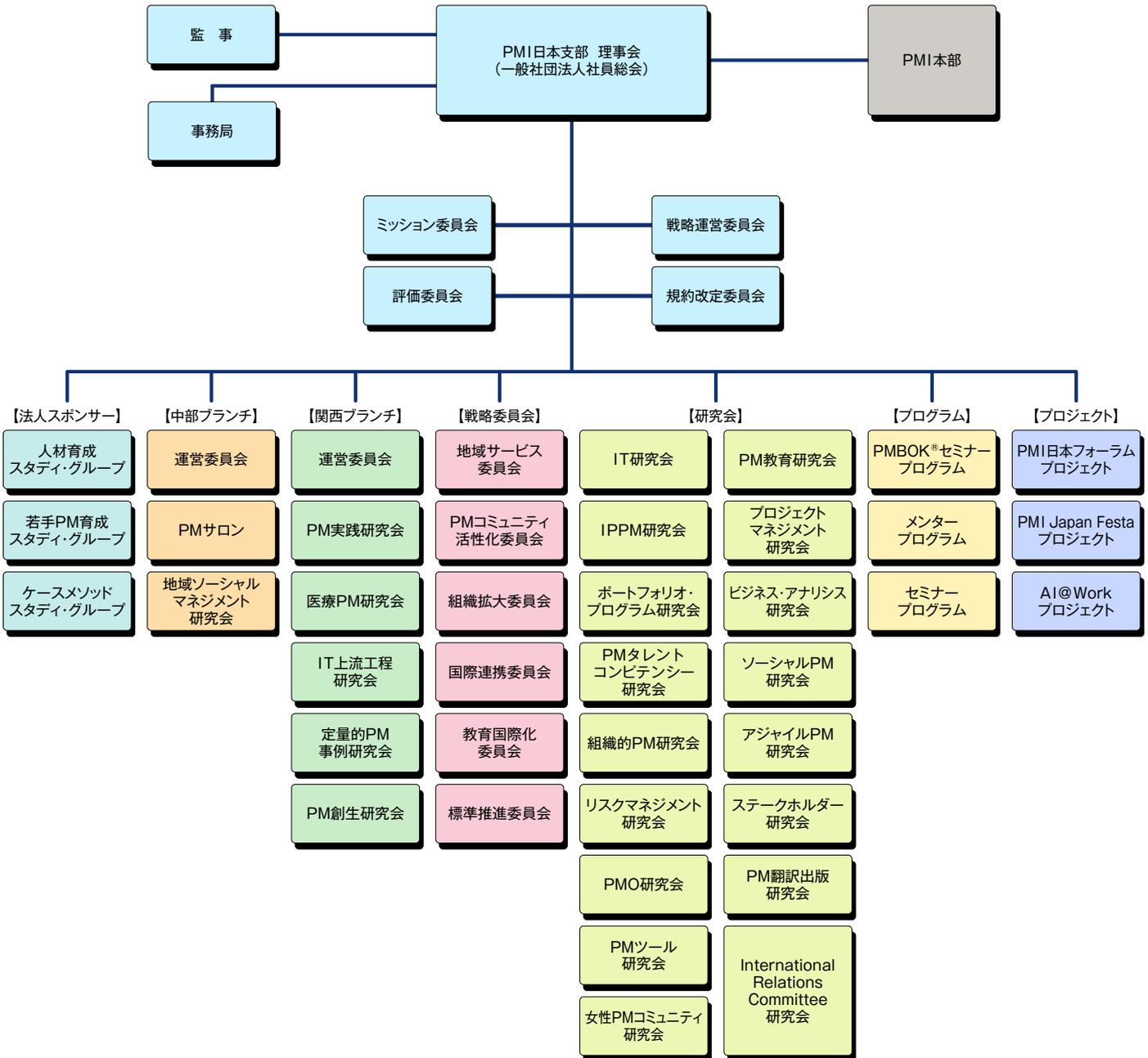
| 【日程(予定)】 | (2020年1月25日(土) 新春特別セミナー) |
|---------------------------|---------------------------------|
| ① 2020年2月20日(木) | ⑤ 2020年6月26日(金) ウェビナー |
| ② 2020年3月18日(水) 中止 | ⑥ 2020年8月19日(水) ウェビナー |
| ③ 2020年4月24日(金) ウェビナー | ⑦ 2020年9月25日(金) ウェビナー |
| ④ 2020年5月22日(金) ウェビナー | ⑧ 2020年12月16日(水) 実施方法検討中 |

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
 PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2020年9月現在)



■ 理事一覧 (2020年9月現在)

| | | |
|-----|-------|--------------------|
| 会長 | 片江有利 | 株式会社システムコストマネジメント |
| 副会長 | 浦田有佳里 | TIS株式会社 |
| 副会長 | 奥澤薫 | KOLABO |
| 副会長 | 斉藤学 | スカイライトコンサルティング株式会社 |
| 副会長 | 端山毅 | 株式会社NTTデータ |
| 副会長 | 福本伸昭 | 株式会社JTB |
| 副会長 | 森田公至 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 |

(以下、五十音順)

| | | |
|----|-------|------------------------|
| 理事 | 麻生重樹 | 日本電気株式会社 |
| 理事 | 池田修一 | 株式会社ポジティブ・ラーニング |
| 理事 | 伊藤衡 | 小山工業高等専門学校専攻科 非常勤講師 |
| 理事 | 伊藤芳彦 | 株式会社三菱総合研究所 |
| 理事 | 井上雅裕 | 芝浦工業大学 |
| 理事 | 岩岡泰夫 | 株式会社国際開発センター |
| 理事 | 金子啓一郎 | 三菱電機株式会社 |
| 理事 | 木南浩司 | 株式会社マネジメントソリューションズ |
| 理事 | 富岡洋子 | 株式会社NTTデータ |
| 理事 | 中村亜子 | パーソルラーニング株式会社 |
| 理事 | 藤井新吾 | モバイルコンピューティング推進コンソーシアム |
| 理事 | 松本弘明 | 株式会社オプティム |
| 理事 | 水井悦子 | エンパワー・コンサルティング株式会社 |
| 理事 | 山本智子 | 川崎医療福祉大学 |
| 理事 | 除村健俊 | 芝浦工業大学 |
| 理事 | 米澤徹也 | 東洋エンジニアリング株式会社 |
| 理事 | 渡辺哲也 | 株式会社日立アカデミー |
| 監事 | 島崎理一 | OPTY合同会社 |
| 監事 | 山中良文 | JFEシステムズ株式会社 |
| 監事 | 渡辺善子 | 株式会社日本政策金融公庫 |

■ 最新の会員・資格者情報 (2020年7月31日現在)

| 会員数 | | 資格保有者数 | | | | | | | | |
|----------|--------|------------|---------|---------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | | PMP® | | PMI-SP® | PMI-RMP® | PgMP® | PMI-ACP® | PfMP® | PMI-PBA® | CAPM® |
| PMI本部 | 日本支部 | 世界全体 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 | 日本在住 |
| 615,310人 | 5,096人 | 1,033,937人 | 38,778人 | 5人 | 11人 | 12人 | 125人 | 8人 | 14人 | 178人 |

■ 行政スポンサー (2020年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■ 法人スポンサー 一覧 (112社、順不同、2020年9月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- パーソルラーニング株式会社
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス

Fact Database / データベース

- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社アジャイルウェア
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社ビジネスコンサルタント
- サイフォーマ株式会社
- 株式会社オプテージ
- 株式会社JTB 情報システム
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- アフラック生命保険株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (49教育機関、登録順、2020年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。

- SDGsの重要性が世界中で提唱される中、内閣府が設立したSDGsのマッチングプラットフォームである『地方創生SDGs官民連携プラットフォーム』の中に、PMI日本支部は、2019年度にSDGsスタートアップ研究分科会を設立しました。今回は分科会のリーダー稲葉涼太氏より活動内容を紹介いただきました。
- PMIは、例年秋に米国でGlobal Conferenceを開催しています。今年は、COVID-19の影響で大規模集会がすべて中止になり、代わってVirtual Experience Series (VES) がリモート開催されています。本稿では、PMI日本支部副会長 端山毅が7月、8月、9月のVESの内容を振り返り、10月以降に参加してみようと思う方にその雰囲気をお伝えします。
- 日本支部の各部会・各研究会の活動、それに伴う情報発信が活発になっていることを受け、情報発信活動を横串で支援すべく、2020年1月期の理事会にて、広報担当理事がアサインされました。その一人である富岡洋子から、その活動状況をご紹介します。
- 今年7月4日・5日に全面リモートで開催した「PMI日本フォーラム2020」。昨年とほぼ変わらない800名を超える受講申し込みがあり盛況裡に終了しました。今回は北海道から鹿児島、さらに海外5ヶ国を含め多くの聴講をいただきました。その結果概要を報告しました。
- 来たる11月7日(土)、8日に開催する「PMI Japan Festa 2020」。今年は日本フォーラムと同様、全面ウェビナー形式での開催となりました。リモート配信ならではの、12回目の節目ならではのFesta(=お祭り)にふさわしい企画が用意されています。ここではFesta 2020の統括PMであるセミナープログラムの大島康宏氏から、その概要を紹介いただきました。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部では、新型コロナウイルス感染拡大防止に鑑み、本年4月から全てのセミナーをリモート化して配信を続けていますが、これから先の第四四半期においてもこの状態が継続する見込みが濃厚です。

このような中、プロジェクト・マネジャーによる年に一度の盛大なFesta(お祭り)を成功させ、長い間にわたる暗澹とした雰囲気を一掃しこの年を締めくくりたいものです。

PMI日本支部ニューズレター Vol.84 2020年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)